

さっぽろ 市議団ニュース

2013年10月21日
No.87

日本共産党市議団事務局発行
電話 211-3221 FAX218-5124

優先信号の全線導入と南1条線の右折禁止を 決算委 小形議員が要求

小形香織議員は10月18日の決算特別委員会(Ⅱ)で、車道幅の狭い南1条線について取り上げ、「車が軌道上にいたり、車両と接触しそうになる。事故の危険も高いと思うがどうか」と質したのに対し、田畑高速電車部長は「過去5年間の接触事故件数をみると全体で111件、うち南1条線は28件となっておりやや多い傾向にある」と答えました。

さらに小形議員は「交差点の右折による事故が多い。優先信号をいっそう増やすとともに、車が市電の運行を妨げないようにするためマイカーの右折は止めさせるべき」と提起しました。田畑高速電車部長は「南1条線に限ってみると、右折によるものが圧倒的に多い。関係機関に要請していきたい」と応じました。

小形議員は「ループ化されると決まり市電に対する期待は大きい。優先信号の全線導入と南1条線の右折禁止を関係機関に申し入れ、札幌市として街中にはできるだけマイカーをなくし、“人と公共交通優先の街”をつくるべき」と強く求めました。

平和を次世代に継承していく事業のいっそうの充実を 決算委 伊藤議員が強調

伊藤理智子議員は10月18日の決算特別委員会(Ⅰ)で、次世代に引き継ぐ平和事業について質問しました。

伊藤議員は「平和都市宣言21周年を迎え、沖縄へ平和訪問派遣団(小学生2人、中学生2人)を送ったことは、参加した子どもたちが『命と引き変えられるものは何一つない。人の命は尊い…』と感想で述べているように、とても大切な取り組みだった」と評価。同じく今年行われた被爆体験者と子どもたち(5人)の座談会にも触れ、被曝を体験された方のお話は、子どもたちにとってとても重みのあるものだった。今後ともこうした取り組みを是非工夫して続けていきたい」と求めました。

浅野地域振興部長は「子ども参加型のこうした取り組みは子どもたちにとって、授業では得ることのできない貴重な経験ができた」と評価しており、今後とも考えていきたい」と答えました。

また伊藤議員は「道内の戦跡や戦争の歴史を知っていくことも大切。平和事業の取り組みを拡充して、さらに多くの子どもたちや市民が平和について考え、学べる機会を広げていくことを前向きに検討していただきたい」と提起しました。浅野地域振興部長は「今後、各自治体の平和事業の取り組み状況や受け入れ環境を調査していきたい」と応じました。